



## 医科との連携による適切な感染防止および 曝露時対応を含めた歯科診療体制の構築 (歯科の医療体制整備に関する研究)

研究分担者 宇佐美 雄司

(独) 国立病院機構名古屋センター 歯科口腔外科 医長

### 研究要旨

歯科の医療体制整備に関する研究班はかねてから、HIV感染者の歯科医療の提供のために、各都道府県において歯科医療ネットワークの構築を目指してきた。この活動は連綿と受け継がれているが、昨年度は現況把握のアンケート調査を行い、今年度はその結果のフィードバックを兼ねて構築を促した。また、やはり昨年度末に作成した「HIV感染者の歯科治療ガイドブック」を今年度当初に全国の歯科医院に配布することができた。本ガイドブックは各地での講習会などでも配布テキストとして用いられ、啓発の持続性に寄与するものと考えている。また、HIV感染者の歯科医療環境の改善には、歯科医師のみならず歯科衛生士の意識向上も必要である。そこで教育現場の啓発のため、本ガイドブックを全国の養成学校に配布した。今後、活用状況を追跡調査していきたい。

救済医療の観点からは、薬害患者の歯科治療状況の点検もしくは改善が必須と考えられる。そのため、全国における血友病患者の歯科治療状況についてアンケート調査を実施した。その結果、多くのHIV感染血友病患者の歯科治療は、拠点病院の歯科口腔外科や特定の歯科医院などが対応していることがわかった。しかしながら、状況が不明な地域もあり、細やかな対応を準備する必要があると思われた。

### A. 研究目的

研究目的としては便宜的に大きく2つに分けた(研究①と研究②)。ただし、両者は関連するものであり、ともに歯科の医療体制整備に関する研究の目的である。

#### 研究①

今やHIV感染症が単なる慢性疾患とさえ言われる状況になり、本来はすべての歯科医院でHIV感染者が受け入れられるべきであろう。しかしながら、全国津々浦々の歯科医師を啓蒙することは、時間とエネルギーを考慮すれば甚だ困難と言わざるを得ない。そこで現実的対応として都道府県単位でHIV診療医療機関とHIV感染者の受け入れ可能な歯科医院との医療連携、つまり歯科医療ネットワークの構築が進められてきた。平成13年に東京都にネットワークが

構築されたが、全国的には、進捗状況や認識に温度差があることが否めない。そこで、研究班としては、全国均てん化のために関係者(都道府県行政のHIV担当部署、都道府県歯科医師会、ブロックもしくは拠点病院の歯科部門)に働きかけ、意識の共有を目指した。また、歯科医療従事者の養成過程からの啓発が肝要と考え着手することも目的とした。

#### 研究②

薬害被害者救済の観点からは、HIV感染血友病患者の歯科医療が適切に確保されなければならない。しかしながら、観血的処置が多い歯科治療においては、血友病患者の対応自体が特殊なことである。それゆえ、血友病患者の歯科診療の状況を把握することを目的とした。

## B. 研究方法

## 研究①

## 1) ブロック別の啓蒙、啓発活動

従前からのブロックごとの活動は基本的に継承している。すなわち、ブロック拠点病院の歯科部門の代表者等（研究協力者）が各ブロック内の都道府県に対し、啓蒙のための講演会、研修会や歯科医療ネットワーク構築のための会合を開催する。

## 2) ブロックHIV歯科医療連絡協議会の実施

平成27年度に引続きブロック単位でのHIV歯科医療連絡協議会の開催を企画する。本協議会は研究分担者からエイズ対策政策研究事業の一環として行うものであることを明確し、開催にあたり参加を依頼するものとする。構成員としては都道府県行政HIV医療担当部署、都道府県歯科医師会、ブロック拠点および中核拠点病院歯科部門の代表者とする。

## 3) その他

## (1) 歯科医療従事者養成機関に対する啓発活動

歯科の医療体制整備に関する研究班にて作成した冊子などを配布し、HIVに関する関心と理解を深めるための活動を行う。

## (2) 全国調査結果のフィードバック

前年度実施した都道府県行政および歯科医師会を対象としたHIV感染者の歯科医療に関する全国調査

結果について、フィードバックし歯科の医療体制整備を促す。

## 研究②

## 1) 血友病患者の歯科医療に関する全国調査

「平成27年度血液凝固異常症全国調査報告書」を基に血友病の診療を行っている医療機関515施設を対象にアンケート調査を行う。質問事項は血友病患者の診療状況、HIV感染血友病患者の診療状況、歯科医療施設との連携の状況、HIV感染者の歯科医療ネットワークに対する認識などである。また、血友病薬害被害者手帳の周知状況についても調べる。

## (倫理面への配慮)

本研究においては、アンケート調査を含め個人情報に関わるものは無い。また、学会発表に際しても匿名性を確保し倫理面での問題はない。

## C. 研究結果

## 1) ブロック別の啓蒙、啓発活動

各ブロックの講演会（都道府県単位以上のものに限る）、研修会等は表1の通りである。内容的にはHIV/AIDSに関する啓発および研修が大部分である。一部の講演会では血友病をテーマにしたものもあった。今年度はブロック拠点病院のない県におい

表1 平成28年度に開催した講演会および研修会（県単位以上のもののみ掲載）

ブロック	講習会・協議会等
北海道	平成28年度第1回北海道HIV/AIDS歯科医療連絡協議会
	第13回北海道HIV/AIDS歯科医療研究会
	平成28年度エイズ予防財団HIV医療講習会（兼）北海道HIV歯科医療研修セミナーin北見
東北	平成28年度東北ブロックHIV歯科診療拠点病院等連絡協議会
関東甲信越	北関東甲信越ブロックブロック代表者情報交換会&講演会
	東京都エイズ診療従事者臨床研修（歯科）コース
北陸	石川県歯科医師会HIV医療講習会（エイズ予防財団後援）
	平成28年度北陸地区HIV歯科診療情報交換会研修会
東海	静岡県歯科医師会歯科医療関係者感染症予防講習会
近畿	大阪府HIV感染者等歯科診療連携体制構築事業における協力歯科診療所向け研修会
中国四国	第7回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議
	平成28年度広島県歯科医師会の会員・準会員のためのHIV感染症に関する講習会
	島根県歯科医師会HIV/AIDS講習会
	高知県歯科医師会医療管理講習会
九州	HIV感染症と歯科診療に必要な感染対策の実践についての講習会

ても、比較的多くの講習会が開催された。

今年度、歯科医療ネットワークは平成27年度末に滋賀県において構築がなされた。

## 2) ブロックHIV歯科医療連絡協議会の実施

### (1) 東北ブロックHIV歯科医療連絡協議会

平成28年10月22日に仙台医療センターにおいて開催した。出席者は表2に示す。東北ブロックはHIV感染者数が少ない県が多いこともあって、従来は同一県内においても、行政、歯科医師会、中核拠点病院歯科部門間の情報共有が不十分であったようである。もちろん、歯科医療ネットワーク構築に関しても必要性があまり理解されていなかったようである。

本協議会において理解の共有がかなり進んだと考えている。

### (2) 東海ブロックHIV歯科医療連絡協議会

東海ブロックにおける本協議会は2回目となるが、平成28年12月17日に名古屋医療センターにおいて開催した。出席者は表3に示す。愛知県においてはネットワークが存在し機能している。静岡県浜松市でも地区歯科医師会の協力が得られていた。静岡県全体としても準備が進みつつあった。岐阜県においては中核拠点病院が中心となり、体制作りが進んでいるようであった。

なお、今年度は2つのブロックでの実施に留まったが、地理的理由から沖縄県単独で同様の協議会を3月に予定している。

## 3) その他

### (1) 歯科医療従事者養成機関に対する啓発活動

「HIV感染者の歯科診療ガイドブック」を全国の歯科衛生士養成学校（159校）に送付し、教育現場においてHIV感染症について理解が進むように要請した。

平成27年に開催された第60回日本口腔外科学会総会・学術大会において企画されたHIVの歯科医療についてposter discussionを取り纏めた冊子が、刊行され全国の口腔外科学会認定、准認定研修施設（約500施設）に送付された。

### (2) 全国調査結果のフィードバック

歯科医療ネットワーク構築状況についての全国調査の結果を、都道府県行政担当部署および都道府県歯科医師会にデータにて送付した。しかし、認識を持続していただくために小冊子にまとめ関係者に送付を予定している。

表2 平成28年度 東北ブロックHIV歯科医療連絡協議会の構成

研究班	宇佐美雄司(名古屋医療センター 歯科口腔外科)
	長坂 浩(仙台医療センター 歯科口腔外科)
青森県	青森県 保健衛生課感染症対策グループ
	青森県歯科医師会
	青森県立中央病院
岩手県	岩手県医療政策室 感染症担当課
	岩手県歯科医師会 学術医療管理委員会
	岩手医大歯科医療センター（口腔保健育成学講座）
宮城県	宮城県保健福祉部疾病・感染症対策室感染症対策班
	仙台市健康福祉局保健所 健康安全課
	宮城県歯科医師会
秋田県	仙台医療センター 歯科口腔外科
	秋田県健康福祉部健康増進課
	秋田県歯科医師会
山形県	秋田大学医学部附属病院歯科口腔外科
	健康福祉部 健康福祉企画課 業務感染症対策室
	山形県歯科医師会
福島県	保健福祉部 健康増進課 保健技師
	福島県歯科医師会 理事
	福島県立医科大学附属病院歯科口腔外科

山形県立中央病院は欠席

表3 平成28年度 東海ブロックHIV歯科医療連絡協議会の構成

研究班	宇佐美雄司(名古屋医療センター 歯科口腔外科)
愛知県	愛知県健康福祉部保健医療局 健康対策課
	愛知県歯科医師会
	名古屋大病院歯科口腔外科
静岡県	静岡県健康福祉部医療健康局 疾病対策課
	静岡県歯科医師会
	浜松医療センター 歯科口腔外科
	静岡市立静岡病院 口腔外科
岐阜県	沼津市立病院 歯科口腔外科
	岐阜県健康福祉部保健医療課 感染症対策
	岐阜県歯科医師会
三重県	岐阜大学医学部附属病院 口腔外科
	三重県健康福祉部業務感染症対策課
	三重県歯科医師会

三重大学医学部附属病院からは返答なし

## 研究②

### 1) 血友病患者の歯科医療に関する全国調査

平成28年5月にアンケート用紙を515施設に送付し、回答数は293施設からあったが、担当医が退職、もしくはすでに血友病の診療を行っていないなどの理由で記載のないものは除外した。結果、286施設からの回答について分析した。3分の2の施設では血友病患者数は5名以下であった（図1）。血友病患者数の多い医療機関ほど、診療しているHIV感染血友病患者が多かった。ただし血友病患者5名以下の施設でも、6.3%の施設がHIV感染血友病患者の診療を担っていた（図2）。歯科治療については



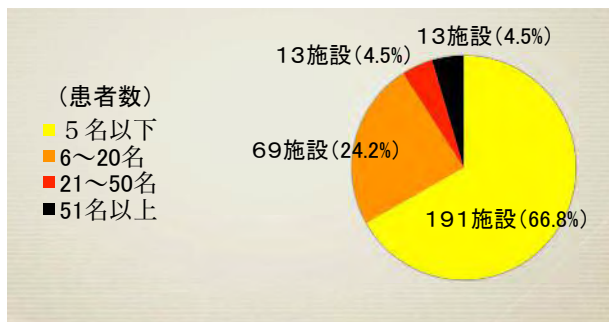


図1 通院している血友病患者数による施設の種類

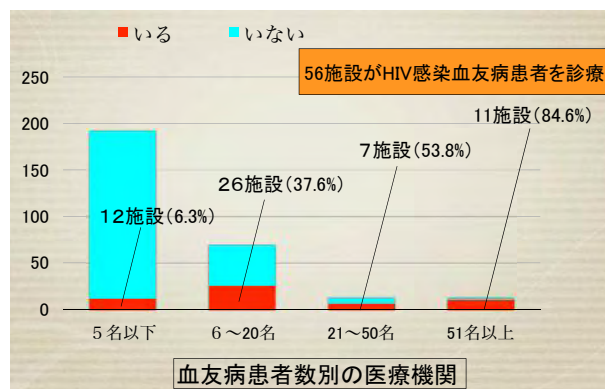


図2 通院しているHIV感染血友病患者の有無

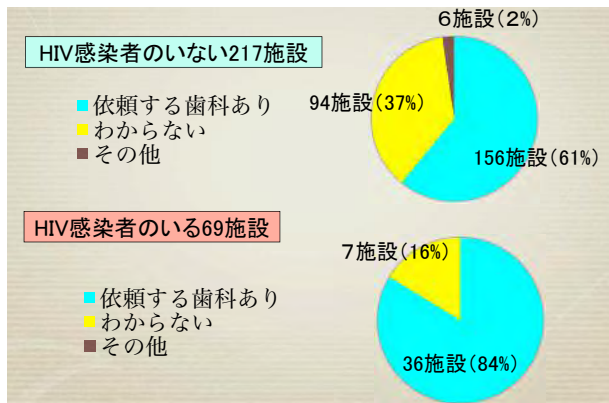


図3 血友病患者（HIV非感染者）の歯科治療について

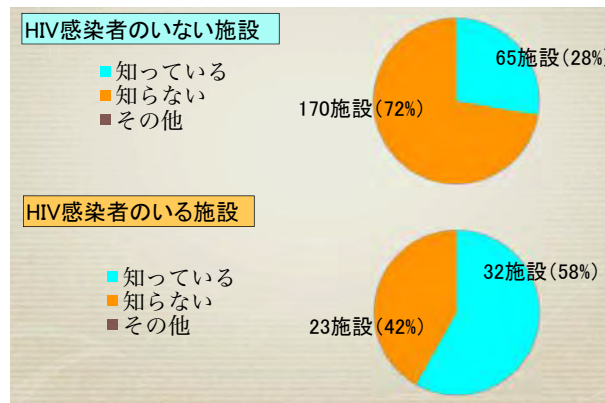


図4 「血友病薬害被害者手帳」について

多くの施設が依頼（連携）する歯科を有していた。特にHIV感染者のいる施設では84%が依頼先を確保していたが（図3）、ほとんどが院内の歯科部門であり、次にブロックもしくは中核拠点病院の歯科口腔外科であった。そして、一般歯科医院との医療連携は限定的であった。

血友病薬害被害者手帳については、HIV感染者の診療をしている施設でも6割程度であった（図4）。

#### D. 考察

##### 研究①に関して

HIV感染者の歯科医療に関しては、現実的な対策として歯科医療ネットワークを構築し対応可能な歯科医院を確保してきた。長年の啓発活動もありブロック拠点病院の存在する都道府県ではネットワーク構築はほぼ完了している。おそらく、HIV感染症を診療しない医療機関の中で、最もHIV感染者の診療をしている医療機関は歯科医院であろう。しかしながら、ブロック拠点病院の存在しない府県では、認識の温度差は否めない。実際、ブロックHIV歯科医療連絡協議会を開催すると、歯科医療提供に関する問題を初めて認識していただける地域も少なからず

あった。そのような状況の中で滋賀県において歯科医療ネットワークが構築されたことは、平成26年度頃から当県において積極的に講習会が開催され、関係者の理解が進んだ成果として特記される。

前年度、「HIV感染者の歯科診療ガイドブック」作成したことは本年度に効果がみられた。すなわち、講習会の開催が様々な地域に広がった。また、平成9年に日本歯科医師会が作成した「一般歯科診療HIV感染予防対策」の改訂着手のきっかけになり、全国的にHIV感染症を理解しようとする動きに繋がったといえよう。

さて、救済医療の面からは、HIV感染者の対応のみでは不十分と推測される。もともと、血友病患者の歯科治療を担っていた歯科医師が、HIV感染血友病患者の治療を請け負っていたと。今年度、実施したアンケート調査においても、ほぼ推測した通りであったが、歯科医療の状況が不明な患者もわずかながら存在することも明らかとなった。確かに80年代とは血友病の治療法も進歩し、血友病患者の歯科治療の制約も少なくなってきた感がある。しかしながら、観血的処置の多い歯科治療ゆえ、血友病に関する知識の普及をはかることや血友病治療医療機関と連携する歯科医院の確保も必要と考えた。

**E. 結論**

長年の啓発活動により、HIV感染者の歯科医療ネットワーク構築は徐々に進みつつある。さらにブロックごとの連絡協議会も関係者の認識、情報の共有に有効であった。今後は本邦における血友病患者の歯科医療のニーズの把握をし、歯科医療ネットワーク構築活動と統合していくことが課題であろう。

**F. 健康危険情報**

なし

**G. 研究発表****1. 原著論文・著書**

- 1) 宇佐美雄司, 北川善政, 長坂 浩, 高木律男, 宮田勝, 有家 巧, 吉川博政. 本邦におけるHIV感染者の歯科医療体制構築について. HIV感染者の歯科診療ネットワークの構築. P15-17日本口腔外科学会 2016年3月
- 2) 宮田 勝, 高木純一郎, 名倉 功, 宇佐美雄司, 坂下英明. 石川県におけるHIV感染症歯科診療ネットワーク構築について. HIV感染者の歯科診療ネットワークの構築.P28-31日本口腔外科学会 2016年3月
- 3) 宇佐美雄司, 菱田純代, 総山貴子, 荒川美貴子, 石原美信. 愛知県におけるHIV感染者の歯科医療体制構築の取組み. HIV感染者の歯科診療ネットワークの構築.P33-35日本口腔外科学会 2016年3月
- 4) 宇佐美雄司. 歯科医療従事者のためのAIDS/HIV感染症の常識. P30-34歯科学研究所インプラント部会雑誌 2017年2月
- 5) 宇佐美雄司. HIV感染症. 知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療 永末書店 in press
- 6) 宇佐美雄司. 院内感染対策と医療曝露. 知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療 永末書店 in press

**2. 口頭発表**

- 1) 宮田 勝, 高木純一郎, 名倉 功, 宇佐美雄司, 坂下英明. エイズ北陸ブロック拠点病院における歯科のHIV診療体制整備の取り組みの現状と問題点 一第2報一日本口腔外科学会学術集会、2016年4月、福岡.
- 2) 宇佐美雄司, 横幕能行. 血友病患者の歯科医療に関する全国調査. 第30回日本エイズ学会、2016年11月、鹿児島.
- 3) 田村光平, 秋野憲一, 遠藤浩正, 宮田 勝, 宇佐美雄司. 都道府県におけるHIV感染症の歯科医

療体制整備状況の経年比較、第30回日本エイズ学会、2016年11月、鹿児島.

**H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）****1. 特許取得**

なし

**2. 実用新案登録**

なし

**3. その他**

なし